

古民家の野外博物館

日本民家園だより

昭和62年度第3号

〈通号第10号〉

発行 62.11.1

川崎市立日本民家園

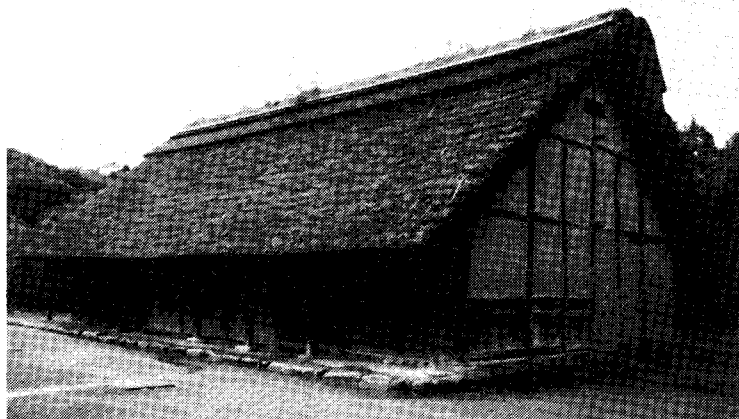
川崎市多摩区枳形7-1-1

電話(044)922-2180-1

印刷(資)永申社

土座の居間が珍しい甲州民家旧広瀬家住宅

- 旧広瀬家住宅
- 神奈川県指定重要文化財
- 切妻造り、茅葺き
- 平面積 129.96㎡
(39.4坪)
- 旧所在地 山梨県塩山市
上萩原1855
- 昭和42年11月 広瀬 保
氏より川崎市に寄贈
- 昭和44年1月 解体移築
に着手
- 昭和44年5月 移築復原
完了
- 昭和46年3月 神奈川県
重要文化財に指定



旧 広 瀬 家 住 宅

◆甲州民家の祖型

この家は、もと塩山市の北方“大菩薩嶺”の麓、ざいし裂石近くにありました。家柄等については不明ですが、17世紀末か18世紀初めごろの建築であるかとみられています。

移築前の姿は正面屋根中央に高窓を突き出した、いわゆる「甲州民家」型でしたが、復原された姿は写真のようにシンプルなもので、これぞ「甲州民家の祖型」といえましょう。高窓は養蚕のため、後につけられました。

間取りは「ひろま型」ですが、珍しいのは「いどころ」と呼ばれる「ひろま」に床がなく、敷物

はあるものの、地面直接で生活する「土座」であることです。また「ざしき」には畳も敷かれていません。さらに軒が低く、壁は一部に壁下地を塗り残した小さな「下地窓」があるのみという閉鎖的なものです。このように年代のわりには古い様式をのこしており、民家の古さがよくしのばれる建物といえましょう。

◆みどころ

- 土座式の「いどころ」
- 閉鎖的な壁面
- 側面の曲り材と壁で構成されたデザイン

本年5月に就任して半年になりました。前号で就任の挨拶を書き、その中で多くの人々のご意見を伺いたいと述べました。早速、先輩の校長先生から北海道開拓の村の情報をいただき、大へん嬉しく思いました。それは「開拓の村」でのボランティアの活動のようすでした。私も、この8月の末に、民家園協議会の先生方に随行として、奈良県立民俗博物館と三州足助屋敷へ視察に行く機会を与えられました。ここでは足助屋敷についてふれてみますと、足助屋敷は、江戸時代から昭和初期にかけての豪農の家を模して、昔ながらの手法で新築した屋敷でした。屋敷内では、山の仕事と暮しが見事に再現されており、来館者には、いろいろな手仕事が体験できるようになっていました。その規模は、長屋門、母屋、白壁の土蔵、職人小屋（3棟）移築民家1棟、水車、炭焼がま、牛小屋、鶏小屋、つるべ井戸など、ひとつの屋敷構えが見事に再現されておりました。特筆したいことは、作業している人が「みせもの」的ではなく、ごく普段の生活の中で、朝から夕べまで働いているということでした。



三州足助屋敷 ～いろいろ端でお話をきく～

したがって、品物の製作工程も最初からやっていくことで、とかく工程省略の多い現代では「実演」が生き生きと映ったのは私だけではないと思います。民具には名称説明はなく、聞けば話してくれるし実際にやらせてもくれました。母屋の大黒柱には「床に上がり、物や人の心にふれてみてください」と書いてあるのを見て、民家園の現状を考え、先輩の校長先生のご意見に納得するとともに、これらのことを今後の園の運営に役立てたいと思いました。

（園の動き）

- ◆ 自由参加行事 一郷土玩具作り一<7/30>
竹製水鉄砲の作製に延べ125名の参加者がありました。
- ◆ 夏休み郷土学習講座<8/8・9・13>
川崎地域のお盆行事等について子供さん達に学習してもらいました。延べ75名の参加でした。
- ◆ 第3回民家園協議会開催<9/11>
- ◆ 民家に学ぼう会<9/20・27>
各地方の古民家の特徴について講義しました。姉妹都市ポルチモアからの参加者を含め、延べ42名が受講し非常に盛況でした。
- ◆ 親と子の手づくり教室<10/4>



説明を受ける参加者 ～民家に学ぼう会～

多摩農協婦人部の方の御協力により、石臼、コネ鉢、カマド等を使用して十五夜のダンゴ作りをしました。46名の参加者がありました。

- ◆ 第4回民家園協議会開催<10/24>

お正月は自作のシメナワで!!

11月の声と共に樹々も彩りを加え、秋は足早に去って寒い冬の訪れも間近になりました。そして新しい年を迎える時が近づいて、「来年こそは」と自身に言い聞かせる時でもあります。

今回は新年を迎えるのに欠かせないシメナワについて、その意義と、シメナワ作り教室のお知らせをいたします。シメナワは元来、神を迎える神聖な場を示す境界であり、古くは縄を張りめぐらし、けがれを清めるシメを付けたものです。正月には私達の家にも天から神がおりてくると信じられており、そのために家の中を神聖な場にしておくのです。シメナワは図に示すような古い型式のものが、変化して現在、歳市の店で売られているような形のものが一般化しました。

○**ゴボウジメ** 神棚用の太いシメナワで、大神宮さまの棚へ張ります。火の神様である荒神さまへは、コウジンジメまたはダイコンジメという中央の太いシメナワをつかいます。

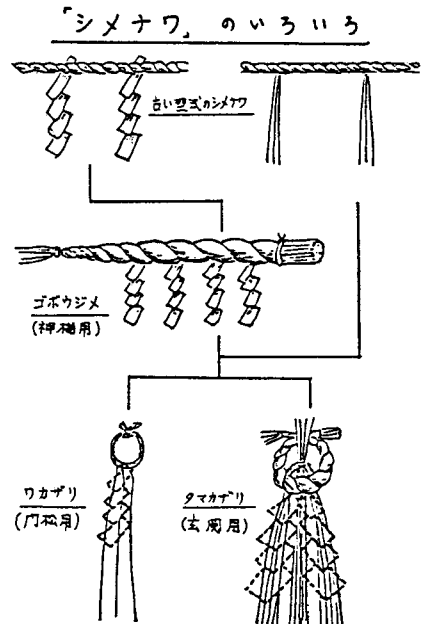
○**タマカザリ** 玄関へ吊るもので、最も一般的なものです。これも古い型式のものを、丸く輪にしたのでタマカザリと呼ばれます。紅白のシメのほか、末広・海老・昆布をはじめ松竹梅・ウラジロなどで飾ります。

○**ワカザリ** タマカザリを簡略化したもので、門松などに付けます。

これらのシメナワを自分で作って飾れたら、と思いませんか。民家園と民技会ではシメナワ作りをします。

行事予定 民具製作技術保存会（見学自由）

- ◆11/8 わらじ。11/29 シメナワ。
- 11/22 ウドンスクイ、トウフサシ、オニオロシ。
- ◆12/13, 20 オミキのクチ。12/13 サキオリ。
- ◆12/6, 13 「民具づくり教室」—シメナワ—

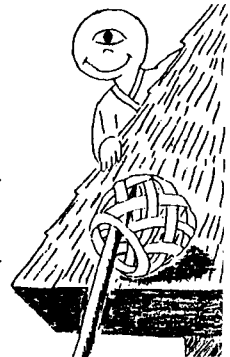


1月までの行事案内

- ◆ **民具づくり教室** <12/6・13(日)>
 - 内容 シメナワかざりの作り方
 - 申込 11/22(日)から往復ハガキで受付、先着順
 - 定員 30名 ○教材費 300円
- ◆ **親子の手づくり教室** <1/10(日)>
 - 内容 小正月のマユダンゴ作り
 - 申込 12/27(日)午前9時より電話で受付、先着順
 - 定員 20組 ○教材費 300円

◀年中行事展示▶

- ◆ **八日僧** (ヨウカゾ) <12月中>
 - 魔除け (一つ目小僧に目を取られないように目のたくさんあるカゴを高く掲げる)
- ◆ **正月準備** <12月中>
 - 餅つき・すすはらい
- ◆ **神棚かざり** <1月中>
 - シメナワなど
- ◆ **小正月行事** <1月中>
 - マユダマ・アワボ・ヒエボなど



ヨウカゾ

～実習生を受け入れて～

日本民家園では、毎年各大学からの依頼をうけて、「学芸員」資格取得のための、実習機関として実習生を受け入れている。今年も6大学10名の学生が希望し、7月から9月までの間に2週間単位2～4名で構成された3グループに分かれて所定のコースを実習した。

近年の博物館、美術館等の建設ラッシュの影響で、学芸員職に対する需要が高まったことや、各大学において、博物館学講座を開設することが増加したことに起因して、当園でも、学芸員のための「実習生受け入れ」の要望が、最近とくに多くなってきている。

熱心な大学側の希望を受けて、園でも学芸員を中心に、可能な限り受け入れるよう、努力している。

特に昨年は、国内の大学生の他に、スウェーデン・ストックホルム大学の学生が、日本民家園で学びたいとの事で、1ヶ月ほど、園職員と同じような業務をして、実践的学習を体験してもらった。

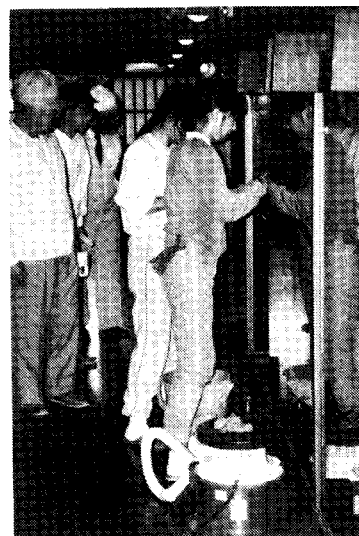
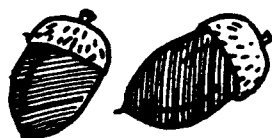
こうして、猛暑の中、汗水流して実習し、大学に帰り、首尾よく単位を取得したとしても、博物館関係への就職は、意の如くならない現実がある。

園としても、彼らの熱意に応じて、学芸活動事業を年間継続してすすめる一方で、実習生受け入れ体制に万全を期しているが、実習期間の短かさや、園の諸設備等の問題で、十分に彼らの要求に対応できる状態にあるとはいえない。

しかしながら、現在まで、幾年も続けてきたこの「活動」は多くの問題を抱えつつも、将来的な展望に立って、博物館を担うための後継者養成の一助になればとの、意義を強く感じ、今日までの歴史をつくってきたわけである。

今後は、さらに、「受け入れ体制」の充実化と、学芸員指導者としてのより一層の研鑽努力の必要性を感じつつ、後継者育成への「思い」をあらたにしているこの頃である。

＜学芸員 渡辺 美彦＞



資料整理に励む実習生

編集後記

日本の各地から、寄贈された貴重な古民家を、皆様にもっとわかりやすく理解してもらえたら、もっと昔の人の生活の中から生まれた日本人の知恵のすばらしさを知ってもらえたらと、園では考えています。自然との調和の中で生きてきた日本人の姿など、タイムスリップして実感してもらえないか。このような見方のできる「くらし」と「いえ」の博物館をめざして、現在、各方面の学識経験者に一堂にお集まりいただき、「構想」を練っていただいております。

近い将来、この夢が実現できるよう関係者一同、頑張っております。皆様方のもつ素晴らしいアイデアもぜひ頂戴したいと思っておりますので、お考えをお寄せくだされば幸いです。